

純粹倫理では、実践の重要性を説きます。頭で考えているだけでは、良き方向へはいきません。行動することで思いもよらない結果となった事例は多いものです。

税理士事務所を営んでいるA子さん。仕事にも趣味にも熱心なA子さんでしたが、二人の所員が突然退職したことに頭を悩ませていました。「なぜ二人は退職をしたのだろう」と考えても、思い当たることはありません。そこで、倫理法人会の先輩に相談しました。先輩からは「過去にした行ないは、巡り巡って自分に返ってくる。良いものでも悪いものでも、受け止めることが肝心だよ」とアドバイスされました。すると、かつての自分の行動が思い出されたのです。Aさんは、独立する前の数年間、個人の税理士事務所働いていました。所長は丁寧に業務を指導してくれましたが、一つ気になることがありました。それは、所長が探求心旺盛で外に出かけてばかりいて、業務に支障が出ていたことです。多くの仕事を抱えていたAさんは独立を考え、一緒に働きたいと言う同僚を伴い、二人で退職したのです。Aさんの事務所を辞めた二人に、かつての自分の姿が重なりました。

その時、Aさんの脳裏に『万人幸福の葉』の第十三条「本を忘れず」が浮かんできました。自分を産み育ててくれた両親以外に、税理士として仕事ができるよう、ここまで導いてくれた職親である所長も私の「本」ではないか」と気づいたのです。あんな辞め方をして、親に義理を欠いた結果



気づいたら

心を決め行動に移す

が今回の事態を招いたのだ」と感じたのです。(あの時、所長はどんな心中だったのだろう…。よし、所長に謝ろう)と決意したA子さん。その日から毎日、謝罪の方法を思い巡らせました。しかし、所長の怒った顔が浮かんで委縮してしまうのです。思いきって数年ぶりに、かつての職場を訪れることにしました。震える心を抑えて近況を報告した後、辞めた当時の非礼をお詫びしました。すると所長は、怪訝な態度をとることもなく、「これからはいつでも遊びにおいで」と温かい言葉をかけてくれたのです。

最近になって、事務所を辞めた所員の一人が、Aさんを訪ねて来ました。「無事、税理士になりました」と喜びの報告だったのです。そして、辞めた理由も告げられました。仕事にやりがいがあったものの、相談したくてもAさんが多忙で時間が取れなかったこと、もっと職場の仲間との結びつきがほしかったことを知りました。Aさんは、訪問を嬉しいと思うとともに、「自分がした行為は、巡り巡って自分に返ってくる」との先輩の言葉を痛感したのでした。

現在、Aさんの職場では、『職場の教養』を使用した活力朝礼を行ない、皆で挨拶の練習や経営理念の斉唱に取り組んでいます。所員たちがイキイキと朝礼に参加している姿を嬉しく思うと共に、これが自分の理想としていた職場なのだと実感しています。

この体験の端緒は、『万人幸福の葉』から気づきを得て心を決め、実際に行動を起こした所にあることは言うまでもありません。